

教育センター通信

第9号(通算114号)
令和6年1月26日
三条市教育委員会
教育センター発行

ほど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ



11月29日(水) 大崎学園
生徒会(双華会)役員選挙立会演説会
※毎年、前期課程5・6年生も参加

改めて防災について考える ～三条市の防災教育～

学校教育課 指導主事 畑 宏幸

1月1日に発生した能登半島地震では、多くの地震や水害を経験している三条市においても、改めて天災の脅威や突発性を痛感したことと思います。天災は不意にやってくると言いますが、「まさか正月休みに！」と多くの方が感じたのではないのでしょうか。1月1日、2日と、各学校の管理職の方々を中心に自校の安全確認に休暇を返上してご対応いただきました。改めて感謝申し上げます。

地震を受けて高橋教育長の年頭の挨拶では、次の話がありました。「1828年に三条地震が発生し、約1,000名の方が亡くなられ、約1万棟以上の建物が倒壊したこと。また、一部の学者によると、その震度が今回の能登半島地震と同じ震度7であり、約200年が経とうとしているが地震エネルギーは溜まったままになっていること。そして同じ規模の地震が再び発生する可能性が高く、現在も全く油断できない状況であること。そのために、想定外のことをできるだけなくすための「事前の準備」が重要であること。」

三条市では、「事前の準備」として、防災教育に力を入れています。平成16年の7.13水害、平成23年の7.29水害を受けて、平成25年から重点学園を指定し、防災教育授業研修会を実施しています。御存じの通り、新潟県防災教育プログラム「洪水災害編」には、三条市の取組が掲載されています。重点学園では、「防災教育の授業公開と教職研修」をセットで年2回、学園向けと市教職員全体向けに実施しています。令和5年度重点学園は、四つ葉学園で、市教職員全体向けに「防災さんぽ」の取組を公開しました。毎年、2回の研修とも専門家の講師をお招きし、御指導をいただいています。各学園で防災教育を充実していただき、災害時に適切に対応できる三条市でありたいと思います。

学園紹介（三条おおじま学園）

12月22日（金）に三条おおじま学園研修会「冬の陣」が開催されました。残念ながら荒天のため、対面ではなくオンラインでの研修会となりましたが、「知育部会」「体育部会」「徳育部会」に分かれ、モニター越しに今年度の振り返りや次年度に向けての意見交換を行いました。

三条おおじま学園は4月に「春の陣」、7月に「夏の陣」という学園研修会を実施してきました。「夏の陣」では学園内の教職員が自ら「妙高アドベンチャープログラム」を体験し、学園内職員の連帯を深めました。その成果もあり、オンラインという形式にも関わらずどの部会も活発に意見の交流がなされていました。

三条おおじま学園では小中が連携した取組が大変充実しています。どの部会でも次年度に向けて建設的な意見が出され、より一層の充実が期待できる「冬の陣」となりました。



オンラインによる各部会の打合せの様子

ライフズテック（プログラミング）に関する研修

中学校技術家庭科技術分野では、プログラミングにより日常の問題を解決することを体験的に学んでいます。三条市は今年度から教材「ライフズテックレッスン」を使用し、一人一人の個に応じた学習を支援しています。去る12月25日、指導を担当する先生方との間で座談会形式で研修機会をもち、個の見取りと指導への活かし方、三年間を見通した効果的な指導、授業時数の課題等について共有することができました。新しい取組に対して、「まずは使ってみる」という前向きな姿勢から、次年度のより充実した授業実践につながると感じる機会となったと振り返ります。

SSWの紹介（三条市教育委員会学校教育課）



R5年11月27日から、スクールソーシャルワーカーとして勤務しております、石井純一です。

スクールソーシャルワーカーは、学校生活を送る上で児童生徒や御家庭が抱えるお困りごとに対して、社会福祉の視点から御家庭、学校、医療や行政などの関係機関をつなぐなど、環境に働き掛け、問題解決に向けて一緒に取り組みます。

学校のことや日々の生活のことなど、お困りごとがあれば御相談ください。

令和5年度オーダーメイド訪問について

オーダーメイド訪問回数 (1月22日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
訪問回数	0	0	7	3	4	12	16	11	4	0	57

オーダーメイド訪問を御活用いただきありがとうございます。校内研修や学園研修、三条市学校教育研究協議会各部会等の授業公開や指導案検討会等で、多くの先生方の前向きな授業改善の取組を拝見してきました。少しでも授業改善のお役に立てなら幸いです。

訪問時は、指導案づくりにおいて、最初の段階から校内や学園の多くの先生方が関わって工夫を加えて作成されていたり、本番の授業公開前にプレ授業を行い、更なる改善を加えたりと校内、学園の協力体制が多くの中で感じられました。授業実践後の授業者の先生の充実感ある表情がその成果となって表れていたように思います。

令和5年度も残すところわずかとなりました。毎年、秋頃は多くのオーダーメイド訪問のご依頼をいただきますが、年度末は少なくなる傾向にあります。お忙しくなる時期ではありますが、形式張らないオーダーメイド訪問も受け付けています。授業がうまくいかない時や新年度に向けこんな授業をしたいので相談が必要な時などに、お気軽にお申し込みください。

第6回・第7回三条学講座（全7回）を実施しました

第6回「自然講座（秋の大崎山をたずねて）」

10月11日(金) 10人の参加で実施しました。小林良範様(NPO法人にいがた里山研究会理事長)を講師に、大崎山を散策しながら、木の実や種、草花・昆虫を見付けたり、それを使った遊びを体験したりして、秋の大崎小山を満喫しました。



音叉をクモの巣にあて、振動で女郎クモをおびき出します。

第7回「包丁づくり講座（①三徳包丁 ②ペーパーナイフ）」

11月11日(土) 5人の参加で実施しました。越後三条鍛冶集団（伝統工芸士、三条鍛冶道場指導員の皆様からの指導で、「三徳包丁、ペーパーナイフ」の2種類から1つを選んで製作しました。名工の手ほどきの下、手づくり感の残る世界でたった一つの自分だけの刃物づくりに挑戦しました。金物の町「三条」を実感する貴重な体験をすることができました。



三徳包丁をスプリングハンマーで鍛える。



ペーパーナイフをハンマーで鍛える。



完成！積層材を使ったペーパーナイフ

おかげさまで、令和5年度の三条学講座（第1回～第7回）を予定通り全て修了しました。

三条学講座は、主に、新しく三条市に赴任された教職員向けの「地域を知る」講座です。令和6年度に入りましたら、案内を配布しますので、積極的に研修に参加ください。

令和5年度 刃物・ものづくり教育の推進

1 ねらい

児童生徒のものづくりに対する興味・関心を高め、その楽しさや素晴らしさを実感できるようにする。そして、三条の「ひと」や「もの」と触れ合い、関わり合う中で友達と活動することに喜びを感じたり、周りの人々に感謝したりする心を育むとともに、「ものづくりのまち三条」のよさを知り、「ふるさと三条」を愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。

2 活動内容

小学校・義務教育学校（前期）→① 和釘づくり学習、② 小刀学習
中学校・義務教育学校（後期）→③ 包丁研ぎ学習、④ 木工用工具学習

①～④の体験学習を実施しています。それぞれ、在学中に必ず1回は体験することとし、金物の町三条の原点に触れることができます。「ものづくりのまち三条」の金物の歴史や道具の扱い方などを学びながら、体験学習を実施しています。

(1) 小学校・義務教育学校（前期）

①「和釘づくり学習」

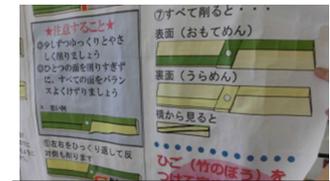
三条鍛冶道場を会場にして、三条金物や和釘の歴史等の講話を行います。その後、指導員の指導で、数ある和釘の中から「階折釘」をつくります。材料である1本の鉄の棒を火床に入れ、真っ赤に柔らかくして金づち一つで形を整えます。平成25年の伊勢神宮の式年遷宮で約20万本もの和釘を三条でつくったと聞き、児童からは「ふるさと三条はすごい！」との感想がありました。



材料の鉄の棒と見本の階折釘(かいおれきぎ)

②「小刀学習」

シルバー人材センターの「指導委託」で実施しました。「竹とんぼ・竹箸・鉛筆けずり」から一つ選択し体験します。小刀の正しい使い方を学習し、はじめて小刀を使う児童がほとんどで、最初は、小刀を怖がる様子が見られましたが、少しずつ慣れてきて、堅い竹と悪戦苦闘しながら竹とんぼを完成させていきました。



竹とんぼづくりの説明

(2) 中学校・義務教育学校（後期）

③「包丁研ぎ学習」

シルバー人材センターの「指導委託」で実施しました。最初の講話で包丁や砥石の種類、研ぎ方を学びます。その後、実際に砥石を使って包丁を研ぎました。「慣れてくると簡単だ!」、「家でもやってみたい。」という感想がありました。使った砥石は家に持ち帰り、マイ砥石として、家庭で学習の成果を生かしていきます。



マイ砥石で包丁研ぎ

④「木工用工具学習」

三条市建築組合の指導委託で、鋸（のこぎり）と鉋（かんな）の使い方を学んだ後、実際の木材を使って作業を行います。鋸でほぞを作ったり、鉋で木を削ったりして、一流の職人技に触れながら体験します。ほとんどの生徒が、鉋（かんな）を初めて手にしたようです。生徒は、削った後のなめらかな材木面に感動していました。



木材を鉋(かんな)削る